

しかし、日本人気質的満足感、スキンシップの場、残存機能の自覚発見学、患者の人間性を追求する場として、介助者にとっては重労働ではあるが、機械導入では処理できぬ満足感もあり、清拭的温浴ではなく、精神的安緒感が得られている現状を持続する方向で検討する。

## 54 入浴前後のフリッカー値の比較と要求水準について

国立療養所鈴鹿病院

野口清子 高見礼子  
曽根妙子 城愛子  
田中美代子

入浴が筋ジストロフィー症患者の心理に与える影響をみるために、フリッカー検査、要求水準検査法による行動特性検査を行なった。

### ① フリッカー検査

対象は当院入院中のPMDドゥシャン型30例と共同研究施設の徳島療養所20例、いずれも障害度5度から8度、合計50例である。竹井機器製のフリッカー測定装置を用い、上限70下限20の間で被験者がちらつきを感じた瞬間に合図させ、その時の値を記録した。上昇下降を交互に10回測定した。検査は入浴前後30分以内に施行した。

フリッカー検査の結果図1に示した。

入浴前の平均値及び標準偏差は障害度5度、6度群では $40.1 \pm 6.2$ 、7度、8度群では $37.1 \pm 4.4$ であった。入浴後の値は障害度5度、6度群では $40.2 \pm 5.7$ 、7度、8度群では $37.2 \pm 4.1$ となった。このようにフリッカー検査では入浴前後に著しい変化はみられなかった。

### ② 要求水準検査法による行動特性検査

対象は当院入院中のPMD患者ドゥシャン型21例で障害度は5度から8度である。方法は図2に示したカタカナを5文字毎に区切って逆唱させ、1分間の作業量を求めた。更に作業量を示し「次はいくつ出来ると思いますか」という質問を行ない、次回の目標量を設定させた。検査の施行回数は10回である。条件は中性場面での個人検査とし、指差による計算を禁じた。検査前に1回練習した。検査は入浴前後30分以内に施行した。この結果は2群に分けて集計し、表1に示した。

入浴前の作業量は障害度5度、6度群では $58.4 \pm 0.3$ 、7度、8度群では $70.3 \pm 12.5$ であ

った。入浴後の作業量は障害度5度、6度群では  $64.0 \pm 9.1$ 、7度、8度群では  $76.3 \pm 1.5$  であり、入浴前後の作業量平均値の間には有意な差はなかった。

図3、図4は目標差、達成差を比較したものである。目標差は前回の作業量をもとにどの方向に目標設定が行なわれているかをみるものであり、達成差は設定された目標が達成されているかどうかみるものである。

表1には、入浴前後の目標変動率と達成変動率の値も示してある。目標変動率は目標設定の確かさを測るものであり、入浴前の目標変動率は障害度5度、6度群では  $5.0 \pm 2.5$ 、7度、8度群では  $3.8$

$\pm 1.5$  であった。入浴後の目標変動率は障害度5度、6度群では  $4.3 \pm 2.1$ 、7度、8度群では  $2.7 \pm 1.5$  となった。達成変動率は立てた目標の達成され方の確かさをみるためのものである。入浴前の達成変動率は障害度5度、6度群では  $6.2 \pm 2.2$ 、7度、8度群では  $4.6 \pm 1.3$  となった。入浴後の達成変動率は障害度5度、6度群では  $4.7 \pm 1.5$ 、7度、8度群では  $3.5 \pm 0.9$  となった。

図1 入浴前後のフリッカー値の比較

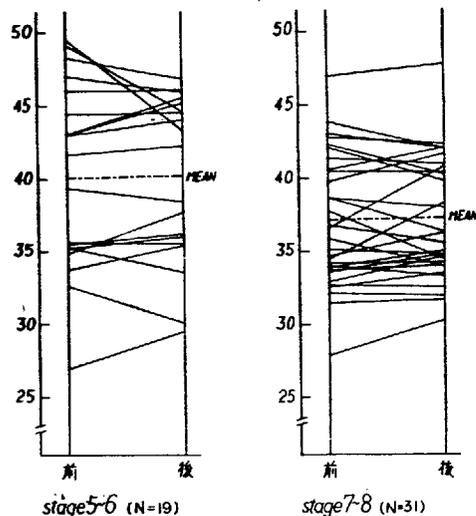


図2 無連想価分類カタカナ表 (部分)

オスケサソリニホヘヤヤマクカハシキトウヒメモエアケコネ  
ムツアイオオウタソニロニワヘルヤリアタカヘシケトカヒモヨ  
コサオトナムレアカオニケチタイヌカホキユカアチカムシチト  
ヨモスアフサソトニメエアキオムケフタカヌシホココキアツカ  
ヌトコヒルモツアムサフムメカアサオモコイタキヌマホシユミ  
カユシホトサヒレモノアエサホトヨメチアシオヤコエタクヌレ  
ユメアニカリシमितシフエヤクイコリヤトロメリアスオリコケ  
ホリユリアネキシルトチウキヤシイサシクナエモキアセオレ  
タツネツホルユレアホキケサイトネフチャナイソシスナキモト  
カエコネタテネルマイヨコイクキススウトホフトヤムウテシソ  
モナアトカオコヒタナノコマキヨチイセキソスカキミフミヤメ  
シネナマモヤアナカキコホタニノトマクヨルイチラチスコトモ  
ユウウミシメニタモラアメカサコリタラノルマスエイイツキチ  
トモフレユタオクスケヌルヤコアユカシロタルハチマメリユイ  
モセトナケホスヨムオサスタネルヤアラカスサイカカハカマリ

表 1

stage 5~6

stage 7~8

	入浴前	入浴後	入浴前	入浴後
作業量	58.4 ± 8.3	64.0 ± 9.1	70.3 ± 12.5	76.3 ± 15.0
目標変動率	5.0 ± 2.5	4.3 ± 2.1	3.8 ± 1.5	2.7 ± 1.5
達成変動率	6.2 ± 2.2	4.7 ± 1.5	4.6 ± 1.5	3.5 ± 0.9

図 3 入浴前後の達成差の比較

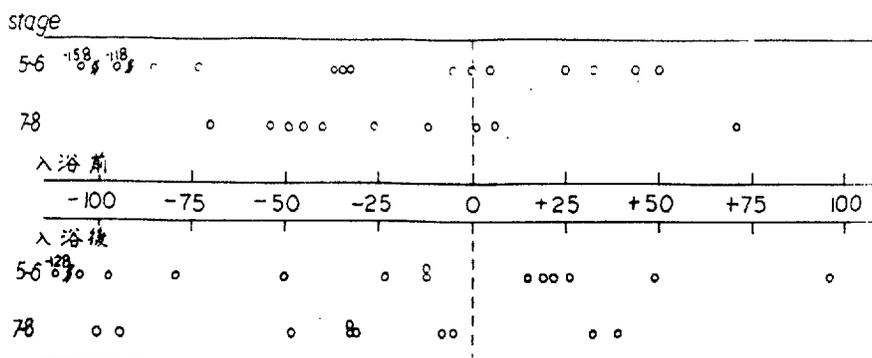
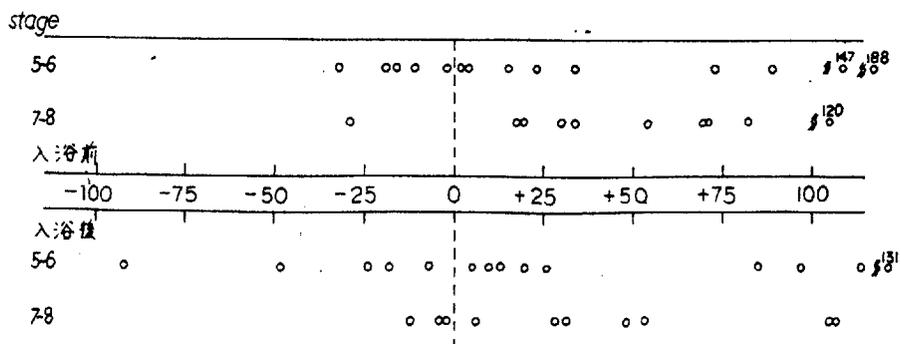


図 4 入浴前後の目標差の比較



この結果からみると目標変動率、達成変動率ともに入浴後の方が値が小さくなっており、安定する傾向がみられた。その理由として検査に対する慣れと入浴による気分の改善の両面が考えられる。今回の調査では調査対象が少ないこともあるのでこの点については、もう少し対象例数を増して調査する必要があると思われる。

#### 〔考 察〕

以上の結果からみる限り、入浴は心理的側面からみてもPMD患者にマイナスの影響を与えて

いないことは明らかである。入浴の生理的効果として、拘縮の予防、二次感染の予防、全身状態の観察、身体の清潔などがあげられており、入浴は健康維持に大きな役割をもっている。

したがって、PMD患者の場合も、症状の許す限り入浴はさせた方がよい。ただ末期患者の場合、入浴が身体症状発現の引き金となり症状の悪化をみることがあるので、私達は日常の観察を充分行い、個々の患者の状態を把握し、医師との連絡をとりながら援助しなければならないと思う。

## 55 入浴に関する看護（入浴介助）

### 国立療養所刀根山病院

大久保 一枝	八 反 喜久子
国 広 泰美子	宮 田 美智子

### 国立療養所宇多野病院

佐 藤 茂 美	山名田 泰 伸
高 橋 貴代美	

### 国立療養所兵庫中央病院

大 谷 美智子	荒 木 エリ子
杭 原 節 子	原 田 敬 子
勝 田 勇 治	野 田 昭 代

宇多野、兵庫中央、刀根山の3施設は、入浴介助を担当してここに一応のまとめをした。手順としては、各々資料を持って参集し、3施設の入浴設備と入浴介助の状況を実際に見聞して検討を重ねた。

#### 1. 入浴介助の必要度

介助の必要度は必ずしも障害度と一致するものではないが、目安としての基準表を作成した。横軸に障害度を縦軸に主な介助項目をとり、独自で行なわせるものに○、部分的介助を要するものに△、全介助を要するものに×で示すようにした。

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

入浴が筋ジストロフィー症患者の心理に与える影響をみるために、フリッカー検査、要求水準検査法による行動特性検査を行なった。

#### フリッカー検査

対象は当院入院中の PMD ドウシヤン型 30 例と共同研究施設の徳島療養所 20 例、いずれも障害度 5 度から 8 度、合計 50 例である。竹井機器製のフリッカー測定装置を用い、上限 70 下限 20 の間で被験者がちらつきを感じた瞬間に合図させ、その時の値を記録した。上昇下降を交互に 10 回測定した。検査は入浴前後 30 分以内に施行した。